



イベントと日常の間に

校長 藤森克彦

早いもので、1学期の登校日は残すところあと13日となりました。1年生も学校生活にすっかり慣れ、4月のころに比べるとひと回り大きく成長したくましくなりましたと感じます。とてもうれしく思います。

この6月は異例の早さで梅雨が明け、すでに猛暑日が続いています。体育や休み時間、登下校など屋外の活動は熱中症防止のためマスクを外してもいいと促しているところですが、状況によっては外の運動の制限も含め、熱中症防止に努めてまいります。また、熱中症はその時々暑さだけでなく寝不足や朝食の不摂取などが要因となることもありますので、ご家庭での体調管理につきましてもよろしくお願いたします。

さて、今年度は新型コロナの感染状況も落ち着いてきており、6年生の日光移動教室をはじめ、各学年の遠足やプールの授業なども再開できるようになりました。やはり、こうした学校行事や校外での活動、様々な体験活動は子どもたちにとって成長の糧となっていると思います。

特に、目的に向かって子どもたち自らが主体的に企画したり協力して取り組んだりする活動は大切です。学校行事だけでなく土曜授業などの機会を生かして学年単位でイベントを行うのも、単なるお楽しみではなく、集団として主体的に活動していくためのスキルや態度をはぐくんでいきたいの思いからです。また、そうした経験を通して、リーダー性や協調性、自分たちでやり遂げたという成就感なども身に付いている手応えを感じています。もちろん、子どもたちに任せることが多くなれば、活動がうまくいかず一進一退を繰り返すこともあります。でもうまくいかなかったことを含め、子どもたちに任せ子どもたちでやっていくという体験や経験の積み重ねは、あとで振り返ると、子どもたちの成長や成熟してきた道筋がストーリーとして見えてきます。

しかし、こうしたイベント的な活動が成長の糧になるからといって、いつもそればかりやっているわけにはいきません。学校はほとんどが毎日同じことの繰り返しです。その繰り返しを着実に一つ一つこつこつと、円を描くイメージで平衡状態を保つことも子どもたちに求められる大事な力です。

テレビ番組の「サザエさん」は毎週日曜日の午後6時半に放送されています。そこでは小さな事件はいろいろと起きますが、決して磯野家に大きな変化はありません。カツオが思春期になってバックパックを背負って世界一周に行ったとか、波平が不治の病で長らく入院したりマスオが単身赴任したりすることはありません。いろいろあっても、日々平凡で平衡状態を保っているストーリーだからこそ、落ち着いて見ていられるのだと思います。日曜日の夕方、明日からまた学校かと、ちょっとブルーな気分になっているときに、エキサイティングな事件やイベントが目白押しに出てきたら、興奮してしまつて収まりがつかいません。

学校の教育活動も、同じようなパターンを同じように繰り返していく中で、行事やイベント的な体験をバランスよく行っていくこと。それらが相乗効果となって子どもたちがくぐんぐん成長していくのだと考えます。

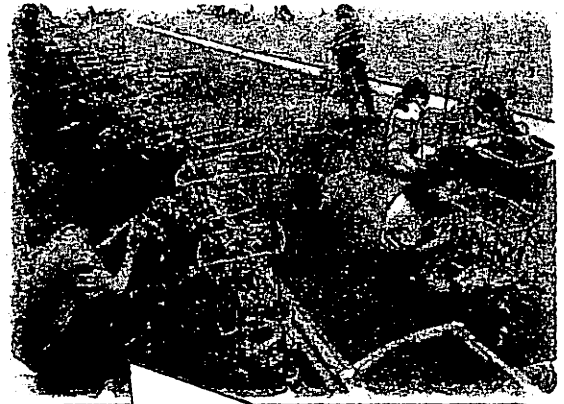
まもなく長い夏休みが始まります。普段できないようなエキサイティングな体験の機会もあろうかと思いますが、あわせて平衡状態が保たれた日常の繰り返しをしっかりとすることで、その効果も倍加するのではないのでしょうか。

2年生 目指せ！やさいづくり名人

2年松組担任：中元 早紀子

2年生はミニトマトを育てる活動を通して、野菜について学習しています。昨年アサガオを育てた経験を生かして、毎日一生懸命にお世話をしているところです。育てていると、アサガオと同じところや違うところに気がきます。「小さな毛が生えているのは同じ」と声が挙がると、「でもミニトマトの方がアサガオより茎が太いよ」「葉っぱの形が違う」と次々に気付いたことを伝えてくれました。友達の話聞いて再び自分のミニトマトをまじまじと観察し、「本当だ」と目を輝かせながら観察していました。

最近ではつぼみができ、花が咲き、小さな実が少しずつ膨らんでいく様子を毎日見守っています。観察も慣れてきたもので、タブレットを用いて写真やメモに記録を残し、それをもとに観察カードを書きためています。毎日見ていると変化に気がつきにくいのですが、生活科の時間に前回の観察カードを振り返ることで「先週はつぼみだったけど今日は花が咲いていました」と違いを意識することができました。



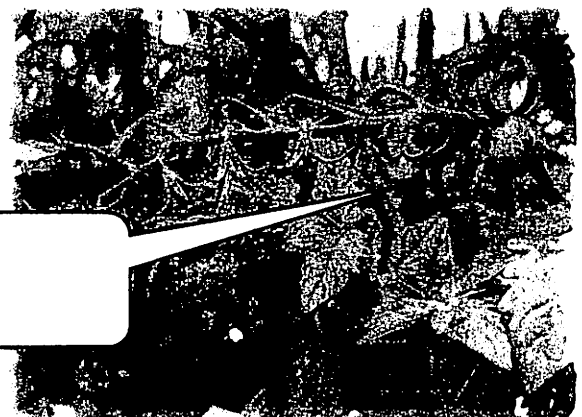
気付いたことをメモするよ。

ミニトマトの観察以外にも、生活科「たねあつめ」ではそれぞれの学級でたくさんの野菜や果物の種を見比べることができました。振り返りでは「ピーマンとトマトの種は同じような形をしているのに、実は色も形も違う」という意見が出ました。子ども達のなかで、大きさや色、形などを観察する力が伸びていることを感じました。これから、もっともっと成長していく2年生。次の成長が楽しみです。



花がさきはじめてよ。
みんな下を向いてさいているね。
なんでだろう。

実が大きくなってきたよ。
赤くなるのが楽しみだなあ。



6年生 フレンドタイム

6年松組担任：小池 絢子

最高学年として初めて司会進行を行ったフレンドタイム（フレンドタイムとは、6年生を班長とする縦割り班活動のことです）。6月8日（水）に行われた第1回のフレンドタイムでは、全体で顔合わせをした後、各班に分かれて自己紹介を行いました。

フレンドタイムが行われる1週間前、本番に向けて各班の6年生が知恵を出し合い、準備を行いました。内容は名前覚えゲームでした。「サイトのルーレットを使ってお題を決めることにしようよ」「サイコロがあったらどの学年の人が発言するか決められそう」「すごろくを作って楽しんでもらえるようにしようかな」と話をする子ども達。6年生の教室は子ども達のやる気で満ち溢れていました。



【松組 やることの流れを説明する様子】



【竹組 座席の準備をする様子】



【梅組 ゲームをしている様子】

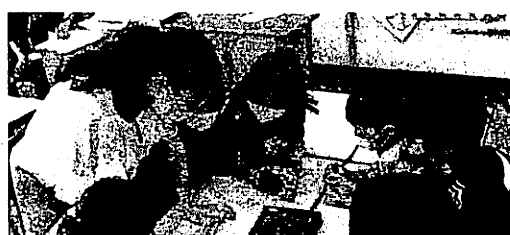


【松組 自己紹介をする様子】

満を持して迎えた当日。緊張している様子も見られましたが、下級生がにこやかな表情で教室へ来ると、「〇班だからこの席だよ」と自分から優しく声をかけていました。名前覚えゲームでは、初めのうちは恥ずかしそうにしていた下級生も次第に打ち解け、楽しそうに笑顔で話をする姿がたくさん見られました。その中でも、6年生が下級生の目線に合わせ、率先して話を聞く姿、時計を見ながら行動する姿が素晴らしかったです。楽しむ中でも、最高学年として引っ張っていくという自覚が感じられた時間でした。



【竹組 自己紹介をする様子】



【梅組 お題のルーレットを回す様子】



【月組 自己紹介をする様子】

6年生が教室に戻って来ると「すごく疲れたけど楽しかった」「自分の名前をちゃんと覚えてくれて嬉しかった」と晴れ晴れとした表情で話をしていました。



【月組 自己紹介をする様子】

フレンドタイムの後には、「名札を見せながら自己紹介をしたらよかった」「下級生と関わる時に目線を合わせるように意識した」「次は時間配分に気を付けていきたい」「声が聞き取りにくい子がいたみたいだから次からは座席の配置を工夫したい」とふり返りをしていました。共に過ごした時間を思い出しながら、次のフレンドタイムの時間をよりよくしていくために何ができるか考える姿が本当に立派でした。次回はどのようなフレンドタイムになるのかとても楽しみです。



年間重点生活目標「大一ABCを身に付けよう」

今月の生活目標

生活のめあて	最後まで話を聞く ～人の話は最後まで黙って聞きましょう～
保健のめあて	ハンカチとちりがみを身に付けよう
給食のめあて	楽しく食事をしよう



の行事予定

日付	曜	主な行事	日付	曜	主な行事
1日	金	図書集会 読書旬間終 委員会	17日	日	
2日	土		18日	月	海の日
3日	日		19日	火	
4日	月	フレンドタイム	20日	水	終業式 午前授業 給食なし
5日	火	放送朝会 避難訓練 保護者会(1・3・5年)	21日	木	夏季休業始
6日	水	体育朝会	22日	金	
7日	木	体育朝会 保護者会(2・4・6年)	23日	土	PTAウォータースプラッシュ 予備日
8日	金	集会 クラブ	◆8・9月の主な予定◆ 8/10(水)～16(火) 本校閉庁日 ・来校・電話等のお問い合わせはお控えください。 ・すまいるスクールについては後日配布の通知にてご確認ください。 8/22(月) 5年林間学園事前検診(13:10) 8/23(火)・24(水) 5年林間学園 9/1(木) 始業式 9/2(金) 給食始 5時間授業始(1年生) 9/6(火) 1・3・5年 保護者会14:30～ 9/8(木) 2・4・6年 保護者会14:30～		
9日	土				
10日	日				
11日	月	学期末個別学習①			
12日	火	放送朝会 午前授業 研究授業(5年松・竹組)			
13日	水	学期末個別学習②			
14日	木	CAP(3年) 学期末個別学習③			
15日	金	音楽朝会 CAP(3年)			
16日	土	PTAウォータースプラッシュ			

生活指導部より

生活指導部 青柳 麻彩

暑い日が続いていますね。熱中症対策を徹底しながら、子ども達は日々元気に過ごしています。7月の生活目標は「最後まで話を聞く」です。フレンドタイムやクラブ活動など本格的に異学年交流の活動が始まりました。フレンドタイムでの6年生のきめ細やかな準備や下級生に対する思いやりあふれる声かけに、感心させられました。班のメンバーの児童は6年生の班長の話真剣に聞いており、4月に入学した1年生も上級生をお手本に、上手にお話を聞けるようになってきています。6年生の真摯な態度が下級生の聞く態度につながり、学校全体により形で浸透していることを実感しました。引き続き感染対策をしっかり行いながら、リーダーである6年生を中心に様々な活動を通し、よりよい大井第一小学校にしていきたいと思います。

リレーコラム「かかわる・創る」

5年梅組担任：福本 千絵

何気ない日常の中で感じたことを俳句にし、友達からのアドバイスを受けてさらに感動が伝わるものに仕上げていく「日常を十七音で」という学習をしました。最初は「川柳なら得意なんだけど、俳句は難しい」「アドバイスなんて無理、無理」という反応でしたが、例示された俳句からよい句にするための様々な工夫や俳句の奥深さが分かったことで、意見交換では的確なアドバイスをし合う様子が見られました。中には「友達からの意見が分かれていて迷う」という子がいたり、話合った結果、何も変えない子がいたりしましたが、それはそれでよいのです。俳句には「これでなくてはならない」という正解はありません。「ああでもない、こうでもない」と子ども同士で活発に意見を交わし、最後は自分で判断してよりよいものをつくろうとする…この過程にこそ価値があると思うからです。授業後の感想に「自分がない視点を友達が教えてくれた」「友達のアドバイスで俳句がレベルアップした」と書いている子がいました。子ども達が「かかわる楽しさ」「つくる喜び」を様々な場面で味わえるようこれからも考えていきます。